

## クリスマスのオフィスにて

### 3つの暴力～見える暴力 見えない暴力②

ヨシオは殴られたり、蹴られたり、叩かれたりはしていないので「この上司は悪くない。部下を教育しているだけだ」と思う人もいるかもしれません。暴力を振るっていないのだからいいじゃないか、と。では「暴力」とは、身体的に人に危害を加えること、という定義で本当に正しいと言えるでしょうか？

“暴力”とは何か。改めて考えてみましょう。

平和学者ヨハン・ガルトゥングの言葉を借りれば、相手を傷つける言葉や、存在を無視するような態度も立派な暴力です（「**直接的暴力**」と言います）。そして、今ヨシオが受けた暴力は、実は目に見えるもの、聞こえるもの以外にたくさんあります。



例えば「仕事で結果を出せば勝ち組。できない人は負け組」という組織は、一部の人にとっては非常に苦しく、決して居心地がいいとは言えません。こういった目に見えない・誰が暴力を振るっているのかわからない、社会の構造に組み込まれた暴力を「**構造的暴力**」と言います。差別や貧困もこれに含まれます。



さらにこれらの**直接的暴力**や**構造歴暴力**を支える考え方や態度も、暴力の一つの形態と考えることができます。仕事や勉強ができることが正義で、これができないときにその人そのものを否定するような周囲の態度は「**文化的暴力**」と呼ぶことができます。

文化的暴力は、集団心理とも言えるものなので、責任の追求が最も難しいものと言えます。

先ほどヨシオが暴力を受け、傷ついて、困っていることを、自分には関わりのないことと無視するような態度も、会社の中のパワーハラスメントを支える重要な要素であり、文化的暴力の一つと言えます。



そしてこのような構図は、社会のあらゆる暴力に共通して存在します。これら3つの暴力構造は戦争が起きる過程でも存在します。例えば今でも世界のどこかで戦争が起きているにも関わらず、それを当事国だけの問題とみなし、無関心でいることは、オフィスで人がいじめられているのを見て見ぬ振りをする文化的暴力と本質的には同じです。

また、戦争を正当化させるメディアの報道、その結果醸成される、戦争を支持する社会的風潮は、文化的暴力に分類されます。そして戦争を可能とする武器が生産されること、軍隊があること、戦争を先導する指導者や政党が存在することは構造的暴力、これらに支えられて実際に武力行為が行われれば、それは直接的暴力であると言えます。